

◇ 目 次 ◇

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| <p>P2 入浜の自然環境調査まとめ</p> <p>P3 夏場の入浜調査</p> <p>P4 トンボ類の生息状況
入浜の地形と植物分布図</p> | <p>P5 JPR 第1回、海辺の生き物</p> <p>P6 鷹ノ巣砲台跡整備・研修会</p> <p>P7 クリーンデイ 編集後記</p> |
|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|



おしまめぐ おとぐい
御島巡りと御鳥喰式

毎年5月15日、厳島神社では御島巡りという年中行事があり、その途中、養父崎神社の沖合いで神秘的な御鳥喰式の祭儀が執り行われます。これは厳島の祭神が鎮座されたおりの故事によるものです。

養父崎神社の沖に供えられた桑筏（しとぎいかだ）へ神鴉が飛来し、桑（きび）団子を啄ばみます。この鴉は祭神の島巡りを先導した神鴉の代々の子鴉とされています。

今年は4羽、昨年は1羽飛来しました。その前の2~3年間は、その姿を見せませんでした。ちなみに参拝者の中に喪に服している方や精進・潔斎が不十分の者が居れば、神鴉は出ないと言われています。

（写真） 中道 勉
（文章） 村上 光春

入浜の自然環境調査

新川 博

平成 18 年度（2006）から入浜池とその周辺の自然環境調査が計画され、そのための準備調査を含めて、現在までに 5 回の調査を実施してきました。調査結果は都度「みせん」に掲載してきましたが、これまでに分ってきたことをまとめてみました。

1、入浜全体の地形の現状

入浜池の北側には、詳しく調べてはいませんが、ごく最近まで居住していた数軒の民家が確認されています。フェンスに囲まれた場所の所有者など、調べる必要があります。

この居住区周辺には、植栽された植物が多く、果樹、庭樹などを含め、外来植物が多く観察されます。浜は東西に長く、浜の両側には岩場や崖地があります。折を見て、磯の生物調査も実施したいと思っています。

2、入浜池の状態

現在は塩分濃度 0%ですが、地形の特徴から、過去には“汽水池”であった可能性があり、水源からの流入水の排水路？の埋没している砂を除去する工事が、今秋実施される予定です。池の周囲にはカンボクやシロダモが多く、内側にはヒトモトススキが群生していますが、昨今の水不足から衰退しているように見えます。



入浜池

この池に「ミヤジマトンボ」の生息環境をとの期待がありますが、今のところ、かなりの隔たりがあるようです。

3、入浜池の今後の展望

多様な生物の繁殖が見られるような、豊かな池を持つ海岸地域に変貌するよう、継続して活動をする必要があります。会員諸氏のご協力をお願いします。

入浜調査の足跡

06 年 3 月 26 日（日） 下見・調査の準備

入浜池の水源調査……北、西、東側の谷からの流入状況を確認。

06 年 5 月 14 日（日） 第 1 回調査

地形図作成のための測量……末原グループによる測量により、本格的な地図が出来上がり、これをもとに調査図を作成することが出来ました。

海面と入浜池水面の高さ測量……立体測量により、平均海面と入浜池水面の関係について潮位（±0cm）と池水面の高さの差は 420cm でした。現在は池の水位低下から若干低くなっているものと考えられます。

水生動物の採集……メダカ、ミズムシ、マツモムシなどの採取は出来ましたが、まだ十分ではありません。

入浜の植物調査……「シダ植物」6 種「単子葉類」3 種「双子葉類」46 種を確認しましたが、今後の調査により、更に増えるものと思われます。

池の水質測定……PH5.5~6、COD4~7ppm
塩分濃度 0%、海水の流入はありません



入浜地形の測量 06/5

“夏場の入浜調査” (第4回)

トンボ種多数の生息を確認

昨年度の3回に引き続き、このたび4回目の入浜自然環境調査が行われました。今回は夏場(梅雨季)の調査として、主に池周辺の植物と池の水生動物について調べました。

日 時 平成19年7月7日 9:40~12:00

参加者 岩崎 小方ペア 小林ペア 佐藤
新川 末原 野呂田 平田 舛田 松田
村上 森 六重部 西 自然保護官



作業分担を決める

06年11月5日(日) 第2回調査
入浜地形図への記入・・・建造物、植物、道路など地形図に記入しました。

(P4下段に地形と植物分布図)

池の水質測定・・・PHの値は5.5~7
CODの値は18+ppm

水生生物採集・・・進展なし

07年2月25日(日) 第3回調査
池の水質測定・・・PHの値は8.3~8.6,
CODの値18+ppm

水生生物の採集・・・進展なし

07年7月7日(土) 第4回調査

水生生物の採集・・・詳細別記

入浜の植物調査・・・海岸性のシダ(ハマホ
ラシノブ)を確認

入浜池の水路調査・・・9月に予定している、
水路の砂を除去する工事予定場所の確認

舛田観察部会長から調査主旨、スケジュールの確認を受けた後、問題となっている池周囲の堆砂状況をチェック、末原環境整備部会長より、先の測量結果等を受けた、今後の対策や許可申請の状況の説明を受け、認識を高めました。

参加者は、植物と水生動物の班に分かれ、これまでの調査を踏まえて思い思いに観察・記録を行いました。また調査とともに、池の中や周囲の漂着ゴミの清掃活動もあわせ行いました。

◎調査結果概要

池の水位は前回(2月)よりかなり高く、前日までの降雨の影響もあったのか、流入・流出が見られました。池のヒトモトススキの健在ぶりと、堆積砂のある土堤でのハマゴウ(咲き始め)の繁茂を確認したほか、周囲の砂礫地でハンゲショウ群落やイワタイゲキなどが初めて見つかりました。

水生動物の採集は、水辺~水深1m程度の池底、ヒトモトススキ群落で行ったところ、トンボ類を中心に多くの知見が得られました。

(詳細は次ページ上段に表記)

水深や底質(砂、泥)、落葉等の堆積状況の違いに応じて、いくつかの種類がいること、水中の群落はイトトンボ類の棲み処になっていることなどが分りました。

まだまだ十分とはいえませんが、平野部の池沼性のトンボ類が生息することが明らかとなりました。生物の視点からも「ミヤジマトンボ」が棲める環境条件を考えていきたいと思います。(松田 賢)



水生動物の採集

入浜池に生息するトンボ類の確認状況 (7月7日)

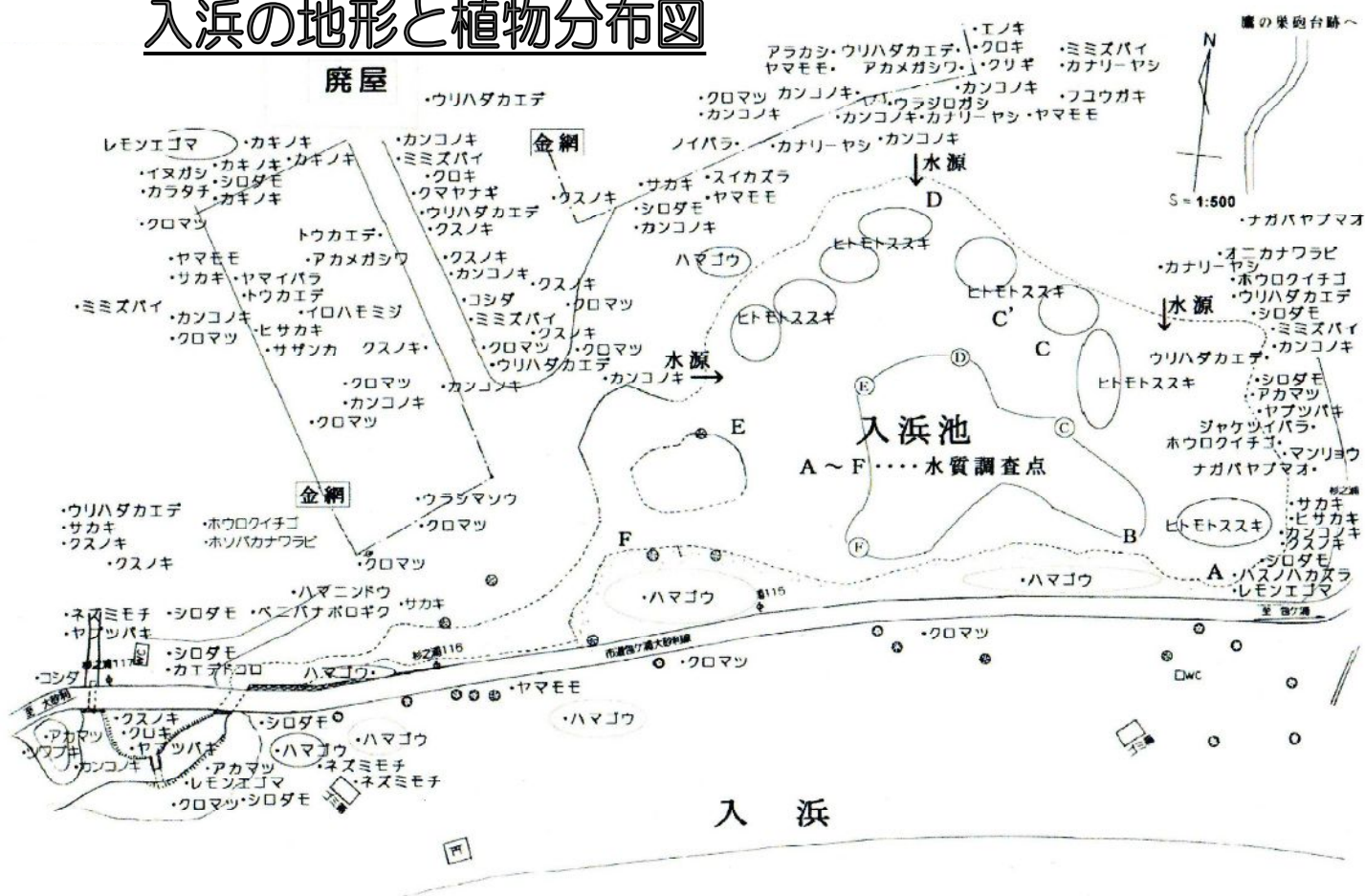
種名	確認データ ¹⁾	確認状況	標本
キイトトンボ	成虫(+)・幼虫(+)	池の水生植物群落，周囲の草地に普通． 幼虫は水中でヒトモトススキにつかま っている	成虫
アオモンイトトンボ	成虫(±)・幼虫(±)	池の水生植物群落，周囲の草地に少数	—
タイワンウチワヤンマ	幼虫(1)	比較的深い池底の砂泥底で採集	—
マルタンヤンマ	成虫(♀1)、脱殻(1)	羽化に失敗した個体を採集．近くに脱殻 も	成虫， 脱殻
ギンヤンマ	成虫(±)・幼虫(+)	池上空をなわばり飛翔．産卵も確認．幼 虫を水深の浅い砂底で多数確認．	—
オオヤマトンボ	成虫(♂1)	池の上空をなわばり飛翔	—
シオカラトンボ	成虫(+)	池や周辺の草地に普通．産卵も確認．	—
ウスバキトンボ	成虫(++)	池の周辺で多数が群飛．	—
コシアキトンボ	成虫(±)・幼虫(±)	池で少数がなわばり飛翔．	—
チョウトンボ	成虫(+) ・幼虫(+)	テネラルが多く、羽化期に入ったとみら れる．幼虫は池底で多く得られた．	—写真 のみ

備考（その他の水生動物）ナミアメンボ（水面に多数），シマアメンボ（流入する沢），コマツモムシ（水生植物群落内，多い），ハイイロゲンゴロウ（水深の浅い所に多数），ガムシ類，ヌマエビ類，カニ類，メダカ

1) 確認個体数の区分

++:多い(数十頭以上) +:普通(10頭オーダー) ±:少ない(数個体)

入浜の地形と植物分布図



「再発見！宮島の海辺の生き物」

子どもパークレンジャー (第1回)

本年も環境省主催で子どもパークレンジャーの自然観察、環境活動が3回実施されます。廿日市市、広島市の小学校4年生から6年生までが対象で、第1回は7月15(日)、16(祝)に実施されました。



参加者 (15日)

井上 岩崎 小方(嗣) 小川 五石
佐渡 野呂田 舛田 六重部

(16日) 小川 舛田

15日は水族館前の干潟の生物を採取し(種類、採取数の確認後に海に戻す)“広島県海岸・干潟生物調査マニュアル”(広島県環境調整室発行)にある写真と対照しました。それでも不明な生物は清水 則雄さん(広島大学総合博物館学芸職員)に尋ねました。

子どもたちは好奇心旺盛で予定時刻を過ぎても熱心に干潟の生物採取を続けていました。またカニの巣穴に樹脂を流し込んで作製する「巣穴の樹脂標本づくり」を清水さんが実演され、流し込みから標本掘りまでを見学しました。標本は第3回プログラムとして9月15日に公開展示されます。

PVはここまでの同行ですが子どもたちは包ヶ浦に移動し、アカテガニの産卵を観察し、翌16日には海岸清掃や環境配慮の実践目標づくりを決めました。16日はPVから2名参加(舛田、小川)しました。

合計3回のプログラムで子どもたちが何を考え、何を実践しようとしているか、今は分かりません。「ふりかえりシート」の記録や第3回(9月15日)の体験展示を通して知ることが出来ると思います。

(五石 勉)

スタッフ

環境省 西 自然保護官 草深自然保護官
藤本 AR
広島大学総合博物館 清水 則雄さん
学生カウンセラー 5名
事務局(人間科学研究所)
志賀 誠治代表他計4名

JPRのテーマ・日程

テーマ	実施日・場所
第1回 海辺の生物の体感 海辺の生態系と人間活動の関係を考える	7月15、16日 水族館前干潟 包ヶ浦
第2回 アカテガニの産卵観察 学んだことをハンズオン展示に表現する	8月27、28日 包ヶ浦 水族館前干潟
第3回 ハンズオン展示を観光客に体験してもらう	9月15日 水族館前干潟 宮島水族館



干潟の生物を採取するJPR

◇次号(30号)発行予定◇

発行日 平成19年12月1日
原稿締切日 10月末日
皆さんの投稿をお待ちしています

鷹ノ巣砲台跡の整備

また観測所跡発見！

日 時 5月19日(土) 9:00～14:00
 参加者 足立 大成 尾川 奥田 川崎
 五石 小林ペア 佐伯 佐藤 新川
 末原 田中 富田 中道 中本 名越
 平田 平山 古川 前田(正) 舩田
 丸平 村上 柳瀬 横路 六重部
 環境省広島事務所 藤本AR

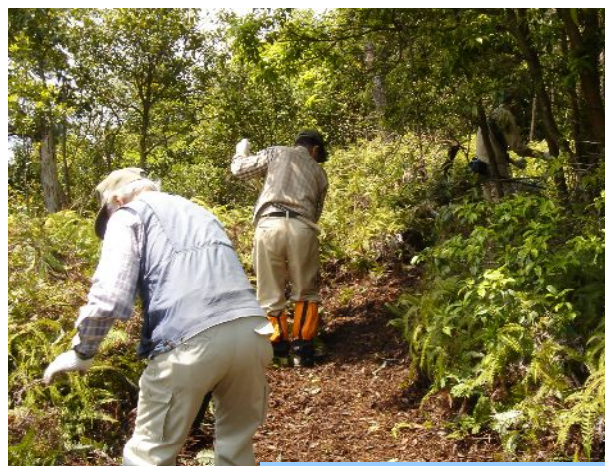
本行事は例年天気の影響に迷わされることが多いのですが、今回は曇り空ながら無事作業を完了することが出来ました。いつもながら末原夫妻手製の「おやつ」には感激しています。又4月からの新入会員も参加され、古い会員の猛者ぶりには戸惑われたのではないのでしょうか！

作業は観測所への通路、階段の堆積土砂の除去、通路欠落箇所の土のうを用いた補修と昨年整備された東側司令室跡の再整備でした。

それからまた新しい観測所？が発見されました。そのため一面シダに覆われた通路を切り開く作業も実施しました。

構築物は昔の職人がていねいに作っているため、特に異常は見られませんが、今後地球上で一番長生きする生物である樹木の侵害がどうしても懸念されます。

最後に要塞関係の資料が多少集まり詰所に置いておきますので興味のある方は見てください。(平田 広三郎)



新しく通路を切り開く

自然観察指導者研修に参加して 小川 加代

この研修は7月4～6日に山梨県の(財)キープ協会で開催されました。(研修費は環境省、交通・宿泊費等は個人負担)参加者は環境省職員、自治体・NPO等職員など計24名(PVは私一人)、講師はキープ協会・(株)自然教育研究センターのベテランスタッフ。この研修は私の20年来の夢で、キープの清泉寮での前日泊を含めるとキープ内散策、研修仲間との交流など本当に楽しく学んだ3泊4日でした。次は研修プログラムの冒頭を転記したもので、これを研修内容の紹介とします。

研修のねらい	そのために大切にしたいこと
①自然解説活動の基本を理解すること	①体験から学ぶこと(まずは体験すること)
②自然解説プログラムの考え方や基本を理解する	②お互いから学ぶこと(相互啓発、相互学習、みんなが先生)
③体験学習法の考え方を学ぶこと	③楽しみながら学ぶこと(あそび心で！)
④全国の仲間とのネットワークを作ること	
⑤あなた自身のねらいを達成すること	

初日に参加者の自己紹介の中で全員が「自分自身の研修のねらい」について書き、発表しました。私は「ボランティアでも出来る、簡単で楽しいプログラムを作り実施できるようになりたい」と記入。研修の最後に、霞ヶ関の自然ふれあい推進室粥川専門官から環境省自然環境局長の修了証と「地元に戻ったら、この研修で学んだことを必ず何らかの形で仲間に伝えてほしい」とのお言葉を頂きました。研修を終えて・・・当PV会には、この研修修了者が他に数名おられるので協力しあって、まず会員対象に自然解説プログラムを企画・体験してみたいです。研修で学んだように、たとえ失敗してもそれを糧に何度も繰り返し、より良いプログラムを目指したいと思っていますので、そのときは皆様、ご協力よろしくお願いします。



環境省主催の全国一斉、自然公園クリーンデーの一環として、8月5日(日)宮島でも実施し、P V会員 24 名他計 39 名の参加がありました。

参加者 足立 池下 井上 岩崎 小川
奥田 川崎 五石 小林ペア 佐渡
島 末原 富田 西 平山 舛田 松尾
丸平 村上 森 柳瀬 矢吹 山坂
田中自然保護官

清掃活動は4班に分れ大元公園、紅葉谷公園、ウグイス道、包ヶ浦方面の遊歩道沿いのゴミ拾い、長浜及び小なきり海岸の清掃を行い580kgのゴミを収集しました。

また宮島栈橋ではポケット灰皿を配布し、ポイ捨て防止の啓蒙活動も行いました。

今年は初めて市広報紙を見た、一般市民 2 名の参加があり、主催者側として嬉しかった



田中自然保護官
のあいさつ



宮島栈橋前で
ポイ捨て防止

です。今後も、この活動が市民へ浸透し、参加者が増えていくことを期待しています。

(末原 義秋)

◇ 行 事 予 定 ◇ (9月)

(10月以降の予定はP8に記載)

○入浜池汽水化復活整備作業

9月14(金) 15(土) 9:00 詰所集合

※当初6月29,30日に予定していましたが延期になったものです。

○弥山の野鳥観察会(ハチクマの渡り)

9月20日(木) 9:00 詰所集合

※当初9月23日(祝)の予定が変更

○樹木名板点検、補充(ウグイス道他)

9月29日(土) 9:00 詰所集合

◇ 編 集 後 記 ◇

▼自然公園クリーンデーで栈橋の前に立って喫煙者にポイ捨て防止の携帯灰皿配布をしましたが、5年前(平成14年)同じキャンペーンをした時と比べて、喫煙者の数が明らかに減っていることを実感しました。宮島町内の道路に落ちている吸殻も少なくなっているようですし、着実に喫煙者のマナーも向上しているようです。▼本紙も次号は30号です、記念号とするために、近々会員にアンケートを実施しますので宜しくお願いします。

(足立)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎2号館6階

TEL(082)223-7450・FAX(082)223-7451

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島栈橋2F)